

柔道ルネッサンス

小室 宏二



平成 18 年 10 月 14～15 日 全日本学生柔道体重別選手権大会(日本武道館)

ただいまご紹介にあずかりました、講道館道場指導部の小室宏二です。

この度は、大会中の貴重な時間を拝借しまして、柔道ルネッサンスのスピーチという大役を授かりました。大変緊張しておりますが、私の実体験を元に、お話をさせていただきたいと思います。僅かばかり、耳を傾けていただけますでしょうか。

皆さんは今、どのような学生生活を過ごされていますか？私は大学に、ある決意を抱いて進学しました。高校 3 年間、一度もインターハイに出場することが出来なかった私は、柔道続けることを諦めました。家業の寿司屋を継ぐべく、放課後は店での包丁研ぎやエビの仕込みといった手伝いを始めました。

その後、様々ないきさつを経て、大学進学へ方向転換をすることになったのですが、両親の回答は「No!」でした。それは、定時制に通っていた兄も大学進学を希望しており、高校卒業年度が重なってしまった為、二人分の学費までは捻出できないとのことでした。それでも無理を言って、二人とも進学させてもらったのですが、1 年生の時、ある衝撃が私を変えました。

ある日、実家に帰りました。その日は店の定休日だったのですが、営業していたのです。私は不思議に思って、なぜ定休日に営業しているのか母親に聞きました。すると母親は「子供が二人とも家を出て、家事が暇だから店を開けたんだよ」と答えました。しかし、そう言う母の表情は、明らかに疲労していました。皆さんも考えてみてください。練習でも、授業でも、毎日休み無く続いたら相当きついですよ。私はその時気づいたのです、自分たちが好きなように柔道をしていることが、どれだけ両親に負担を掛けているのか。

それ以降、私の授業や柔道に対する取り組みが変わりました。この期間を無駄にしてはいけません。強くなりたい、という願望が、必ず強くなって恩返しをするのだという決意に変わった瞬間でもありました。この大会では 4 度目の挑戦でやっと優勝することが出来ましたが、初めて、嬉し泣きというモノを経験した大会でもあります。

学生、選手の皆さん、多くの方々のお世話になりながら、柔道に打ち込める環境にいることに甘んじることなく、充実した学生生活を心掛けてください。そしてこのあとに出場される選手の皆さん、頑張ってください。ご静聴、ありがとうございました。